

平成 30 年食中毒発生状況の概要について

令和元年 5 月
厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課

1. 発生状況（事件数, 患者数, 死者数）

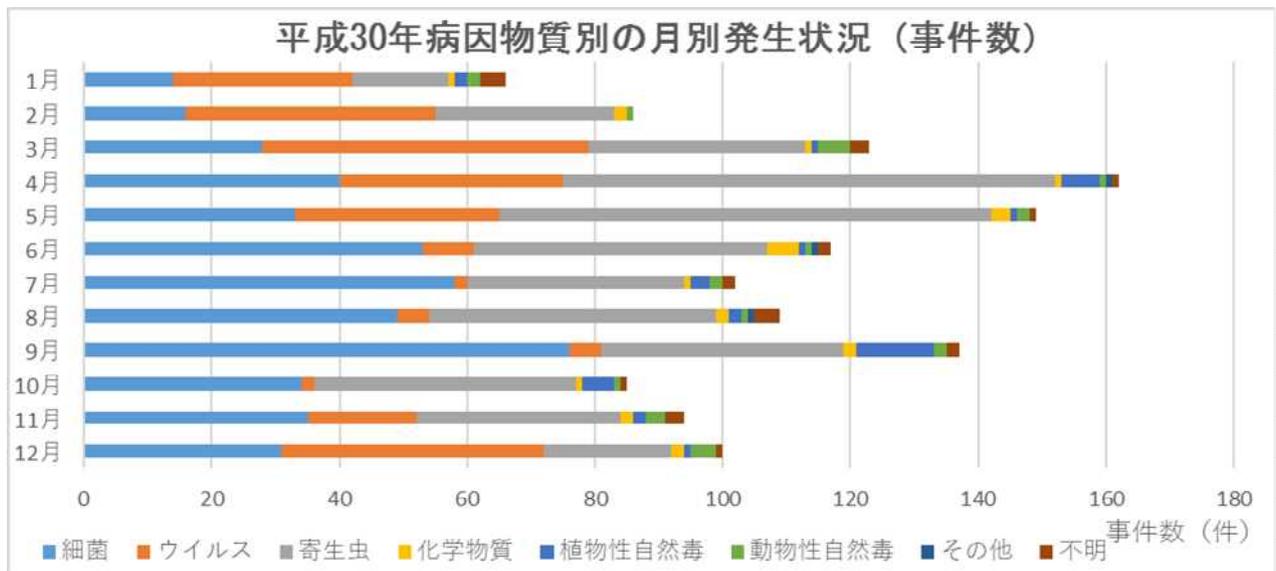
○平成 30 年に国内で発生した食中毒事件数は 1,330 件（対前年+316 件）, 患者数 17,282 人（対前年+818 人）, 死者数 3 人（前年比±0 人）であった。

○そのうち, 患者 2 人以上事例は, 822 件（対前年+77 件）, 患者数 16,774 名（対前年+579 名）であり, 全体の事件数の 61.8%、全体の患者数の 97.1%を占めていた。

○患者 500 人以上の食中毒は 2 件発生した（前年は 2 件）。

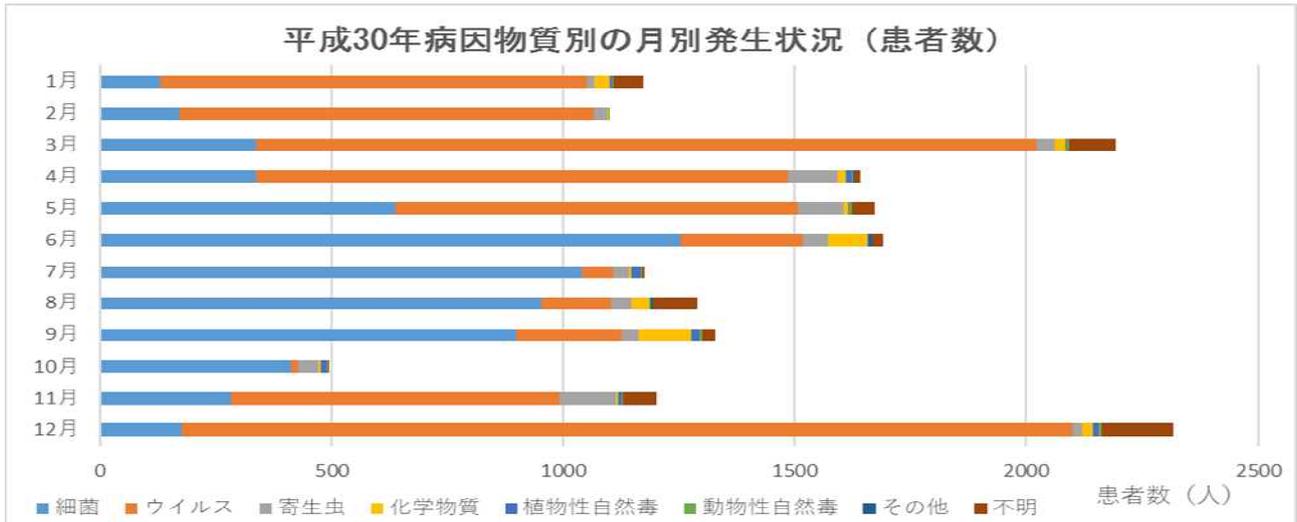
2. 月別発生状況

食中毒事件の発生が最も多かった月は, 4月の 162 件（12.2%）で, 次いで5月の 149 件（11.2%）, 9月の 137 件（10.3%）の順であった。患者数では, 12 月の 2,318 人（13.4%）, 3月の 2,193（12.7%）, 6月の 1,691 人（9.8%）, の順で多かった。



	H30											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	14	16	28	40	33	53	58	49	76	34	35	31
ウイルス	28	39	51	35	32	8	2	5	5	2	17	41
寄生虫	15	28	34	77	77	46	34	45	38	41	32	20
化学物質	1	2	1	1	3	5	1	2	2	1	2	2
植物性自然毒	2	0	1	6	1	1	3	2	12	5	2	1
動物性自然毒	2	1	5	1	2	1	2	1	2	1	3	4
その他	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
不明	4	0	3	1	1	2	2	4	2	1	3	1

図 1 : 平成 30 年月別発生状況（事件数）



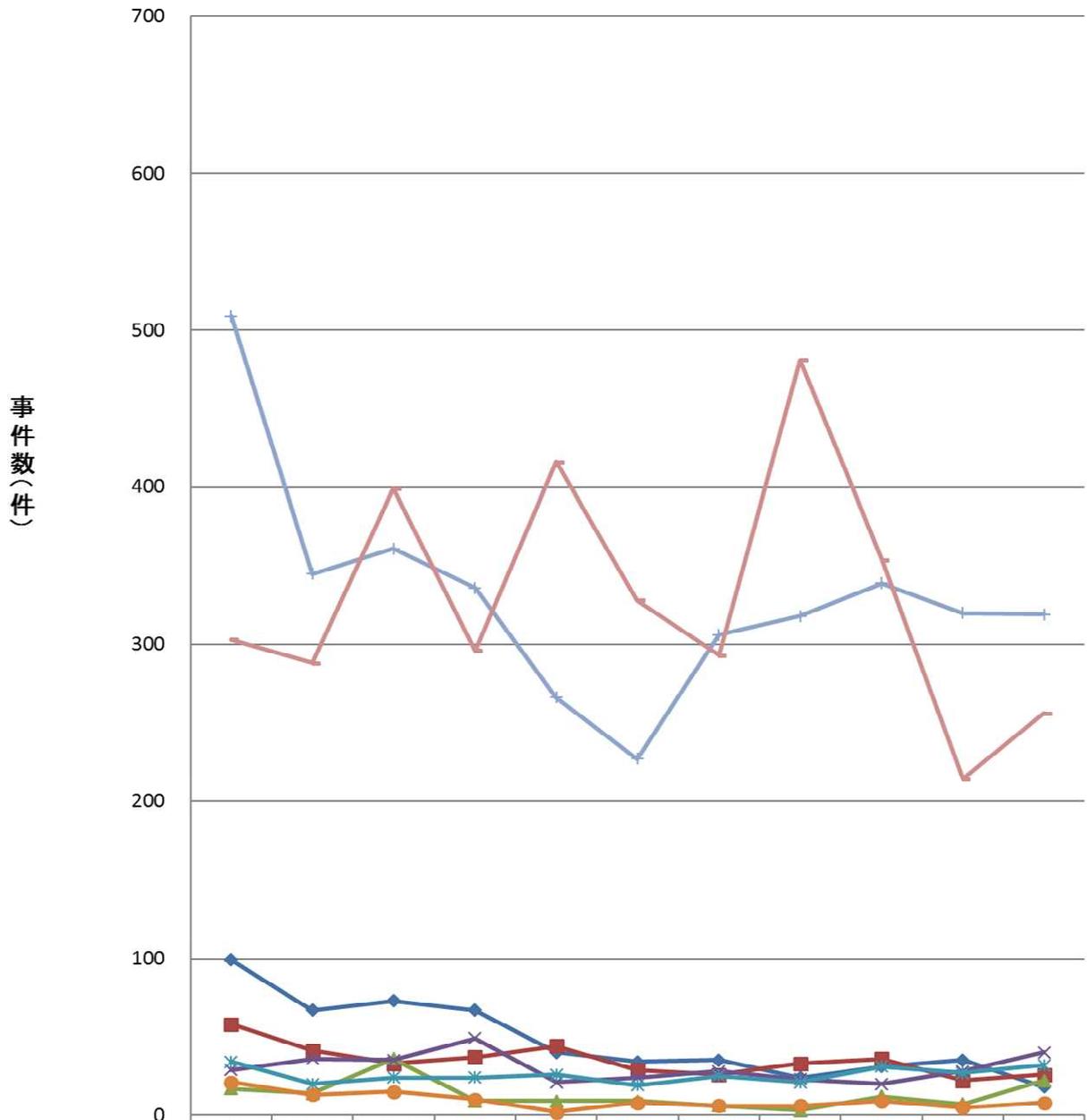
	H30											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	129	172	338	338	638	1254	1040	952	899	413	282	178
ウイルス	923	895	1683	1148	870	264	69	151	227	15	709	1922
寄生虫	15	28	40	107	98	55	34	45	38	44	123	20
化学物質	35	3	23	17	11	84	5	37	112	6	4	24
植物性自然毒	3	0	2	14	2	2	20	2	20	13	8	13
動物性自然毒	3	1	7	1	4	1	2	2	4	2	3	4
その他	0	0	0	3	0	8	0	4	0	0	0	0
不明	66	0	100	15	50	23	5	96	29	2	74	157

図2：平成30年月別発生状況（患者数）

3. 病因物質別発生状況

- 病因物質別の事件数を見ると、アニサキス（468件, 35.2%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（319件, 24.0%）、ノロウイルス（256件, 19.2%）の順が多かった。また、病因物質別の患者数は、ノロウイルス（8,475人, 49.0%）、ウェルシュ菌（2,319人, 13.4%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（1,995人, 11.5%）の順が多かった（図3, 4）。
- そのうち、2人以上の事例の病因物質別の事件数を見ると、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（313件, 38.1%）、ノロウイルス（256件, 31.1%）、ウェルシュ菌（32件, 3.9%）の順が多かった。また、2人以上の事例の病因物質別の患者数は、ノロウイルス（8,475人, 50.5%）、ウェルシュ菌（2,319人, 13.8%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（1,989人, 11.9%）の順が多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数32件（2.4%）、患者数456人（2.6%）、死者0人であった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、ノロウイルス（平成9年に病因物質としてノロウイルス（当初は小型球形ウイルス）を追加）とカンピロバクターにおいて事件数及び患者数共に高い値で推移している。
- 平成25年1月より寄生虫（クドア、サルコシスティス、アニサキス、その他寄生虫）についても食中毒事件票に病因物質種別として追加した。それぞれの病因物質による事件数と患者数は、クドアが14件155人、サルコシスティスが1件8人、アニサキスが468件478人であった。

全体の食中毒事件数の年次推移

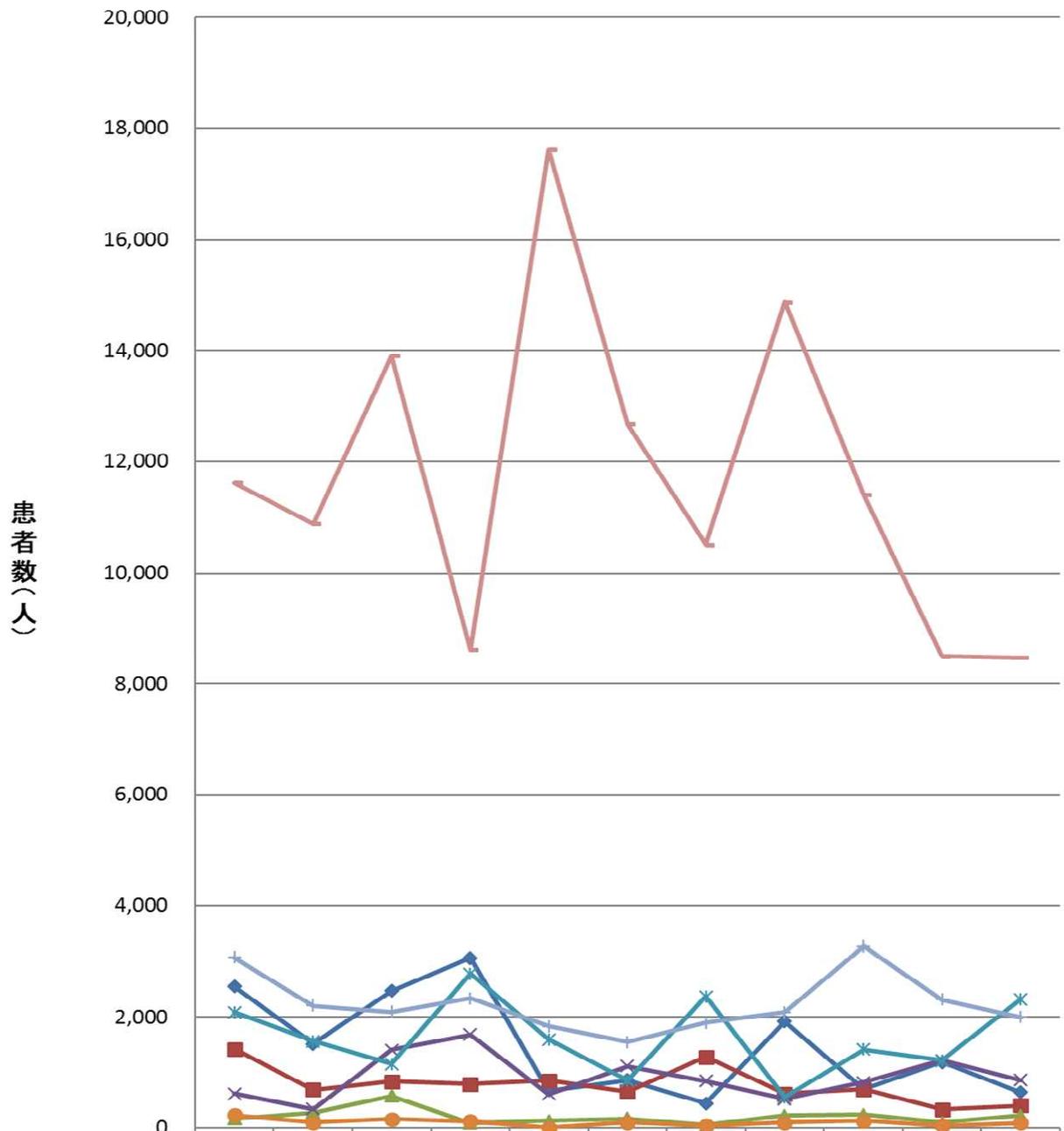


	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
◆ サルモネラ属菌	99	67	73	67	40	34	35	24	31	35	18
■ ぶどう球菌	58	41	33	37	44	29	26	33	36	22	26
▲ 腸炎ビブリオ	17	14	36	9	9	9	6	3	12	7	22
✕ 病原大腸菌*	29	36	35	49	21	24	28	23	20	28	40
✱ ウエルシュ菌	34	20	24	24	26	19	25	21	31	27	32
● セレウス菌	21	13	15	10	2	8	6	6	9	5	8
— カンピロバクター	509	345	361	336	266	227	306	318	339	320	319
— ノロウイルス	303	288	399	296	416	328	293	481	354	214	256

図 3 : 平成 20~30 年食中毒事件数推移

*腸管出血性大腸菌を含む。

全体の食中毒患者数の年次推移



	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
◆ サルモネラ属菌	2,551	1,518	2,476	3,068	670	861	440	1,918	704	1,183	640
■ ぶどう球菌	1,424	690	836	792	854	654	1,277	619	698	336	405
▲ 腸炎ビブリオ	168	280	579	87	124	164	47	224	240	97	222
✕ 病原大腸菌*	616	341	1,406	1,681	611	1,112	847	518	821	1,214	860
✧ ウェルシュ菌	2,088	1,566	1,151	2,784	1,597	854	2,373	551	1,411	1,220	2,319
● セレウス菌	230	99	155	122	4	98	44	95	125	38	86
⊕ カンピロバクター	3,071	2,206	2,092	2,341	1,834	1,551	1,893	2,089	3,272	2,315	1,995
— ノロウイルス	11,618	10,874	13,904	8,619	17,632	12,672	10,506	14,876	11,397	8,496	8,475

図 4：平成 20～30 年食中毒患者数推移

*腸管出血性大腸菌を含む。

4. 原因食品・施設別発生状況

- 原因食品の判明したものは、事件数 1,119 件(84.1%) , 患者数 15,867 人 (91.8%) であった。
- 原因食品別の事件数を見ると、魚介類 (414 件, 31.1%) , 複合調理食品 (77 件, 5.8%) , 肉類及びその加工品 (65 件, 4.9%) の順で多かった (「その他」を除く。以下この項において同じ。)。また、原因食品別の患者数は、複合調理食品(2,124 人, 12.3%) , 次いで魚介類 (1,209 人, 7.0%) , 肉類及びその加工品 (451 人, 2.6%) の順で多かった。
- そのうち、2 人以上の事例における原因食品別の事件数見ると、複合調理食品 (73 件, 8.9%) , 魚介類 (72 件, 8.8%) , 肉類及びその加工品 (64 件, 7.8%) の順で多かった。また、2 人以上事例における原因食品別の患者数は、複合調理食品 (2,120 名, 12.6%) , 魚介類 (867 名, 5.2%) , 肉類及びその加工品 (450 名, 2.7%) の順で多かった。
- 原因施設の判明したものは、事件数 1,142 件(85.9%) , 患者数 16,803 人(97.2%) であった。
- 原因施設別の事件数を見ると、飲食店(722 件, 54.3%) に次いで家庭 (163 件, 12.3%) , 販売店 (106 件, 8.0%) の順で多かった。また、原因施設別の患者数は、飲食店 (8,580 人, 49.6%) , 仕出屋 (2,682 人, 15.5%) , 事業場 (1,959 人, 11.3%) の順で多かった。
- そのうち、2 人以上の事例における原因施設別の事件数を見ると、飲食店 (593 件, 72.1%) , 事業場 (40 件, 4.9%) , 家庭 (36 件, 4.4%) の順で多かった。また 2 人以上の事例における原因施設別の患者数を見ると、飲食店 (8,451 人, 50.4%) , 仕出屋 (2,682 人, 16.0%) 事業場 (1,959 人, 11.7%) の順で多かった。

5. その他

平成 30 年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省医薬・生活衛生局ホームページ「食中毒に関する情報」 (<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/>) で公開している。

患者数500人以上の事例(平成30年)

	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設 種別	原因食品名	病因物質種別	患者総数	死者総数	摂食者総数
1	京都市	2018/6/28	事業場-給食施設 -事業所等	不明(当該施設で調理 し, 提供された食事)	細菌-ウェルシュ菌	621	0	1,132
2	広島市	2018/12/11	仕出屋	不明(12月10日~12 日に製造された給食弁 当)	ウイルス-ノロウイルス	550	0	不明

死者が発生した食中毒事例(平成30年)

	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設種別	原因食品名	病因物質種別	患者総数	死者総数	摂食者総数	死者年齢
1	北海道	2018/4/22	家庭	イヌサフラン(ギョウ ジャニンニクと誤食)	自然毒-植物性自然 毒	2	1	2	男:70歳~
2	北海道	2018/7/12	家庭	イヌサフラン	自然毒-植物性自然 毒	1	1	1	女:70歳~
3	三重県	2018/9/11	家庭	ニセクロハツを家庭で 調理した食品	自然毒-植物性自然 毒	1	1	1	男:70歳~